
心のルーズリーフ

ちょうつがい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心のルーズリーフ

【Nコード】

N2854T

【作者名】

ちようつがい

【あらすじ】

誰もが通る思春期

自分を表現する方法を模索していくノア

楽しいって何

悲しいって何

生きるって何

普通って何

当たり前って何

我慢って何
後悔って何
未来って何

別れって何
失うって何
死ぬって何

生きてく全てを文字にしました
最終章までお付き合い下さい

Cherryblossom(前書き)

思春期を駆け抜け苦悩と過ち、後悔を繰り返し大人への階段を上げるノア

恋愛が全ての青春を精一杯生き、一緒にいる喜びや失う悲しみを経験する事で真っ白な心の紙を染めていきます

一人一人違う心のルーズリーフ

最終章に明かされるその色彩は何色なのか

Cherryblossom

誰もあの時を後悔したり悔やんだりした事があるだろう

いつか絡まった糸はほどけて私の指を伝っていつてくれると信じて

もしあの時立ち止まっていたら

もしあの日空を眺めていたら

もしあの日あの道を曲がらなければ

もしあの時バスを待っていないければ

もしあの瞬間あなたの心を感じられたなら

もし人生を巻き戻せるなら桜の咲き降るあの時に戻るだろうね

(クシュン) ああ風邪ひいたかな

ノアは真新しい制服に袖をとおしていた

明日は高校の入学式

中学時代は勉強もスポーツも人並みで特に何が得意という訳でもなかった

しかしどうしても行きたい高校には学校からはギリギリと言われていた

無理してでも行きたかった理由：

チエツクの制服と胸の小さいネクタイに惹かれて決めていたのだ

その憧れの入学式の前日に風邪をひいて自分にあきれるやらため息まじりに空を眺めていた。

大好きな歌を聞きながら明日からの高校生活に胸踊らせる

スカートの丈はこれくらいかなあ

ネイルは最初はねえ…化粧は薄めだけど目元は強めでいっちゃんおうなど独り言を言っていた

（クシユン） ああ彼氏ほしいなあ

ノアは中学時代好きな人が学校にはいなかった

いつも好きになるのはお姉ちゃんの友達だった

よくお姉ちゃんや彼は彼氏や友達を家に連れてきてたが三つ上のお姉ちゃんやんは自分と違い妙に大人に見えた

毎朝私が起きる一時間前には起きて化粧を始めている

そのため朝の洗面台はお姉ちゃんが使っている時間はいつの間にか使用禁止のような状態になっている

家族みんな朝の洗面は台所であるのが当たり前の光景になり早二年が経つ

お姉ちゃんをよく違う男の人を連れてくるが彼氏なのか友達なのかわからない時もある

しかし来る男の人は皆私には優しくそれがうれしく、よくお姉ちゃん部屋の居座った

だからいつもそんなお姉ちゃんの友達を好きになっていた

姉の後ろ姿に影響を受けて高校生活は最初から駆け抜けるつもりで心も体も準備していた
そう姉と入れ違いで同じ高校に

ブーブーと携帯が振動したと同時に着信音「WHO」が流れた
携帯の画面には ゆっこ の文字が

もしもし何してる？

いつもの明るい声でゆっこは言った

明日の入学式の準備だよ

でも風邪ひいたつばい

大丈夫？

明日行ける？

私は準備終わったよ

でねえ

ノアはすぐにゆっこが何が言いたいかわかった

そもそもゆっこことの付き合いは幼稚園から現在までずっと一緒である
そのため話の入りで何を話すかだいたいわかる

いつものパターンの男の話である

性格は太陽と月くらいの違いがありゆっこは常に光の下にいるよう
な子で男の子にも女の子にも人気があった

早熟で小6からずっと付き合い合ってる彼氏がいて最近愛し合い方を覚
えて大人になったと喜んでいる

でその彼との話に違いないと瞬時に思うのと同時に今日はどんな話
を聞かせてくれるのか多少気持ちが高ぶる

普段いつも一緒にいる訳でもないが昔からの仲がよくいるんな話を
する

彼氏がねえあれ舐めてっっていうの

私どーしていいかわからないしそんな事しなきゃいけないのかなっ
て思っ

てノアどう思っ？

いきなり頭を叩かれた気分になった

この前衝撃のベットの上的話を聞いて理解にかなり苦しんだが百歩譲ってありと考え直した矢先…舐める…

有り得ない

絶対有り得ない

無理も何もなんで？

自問自答する

ゆっこの話とはまらない

バナナで練習するといいいよって先輩に聞いたんだけどバナナじゃあ、かじっちゃうよねと電話口で笑ってる

…思考回路がついてこないバナナは食べ物じゃん

ってかさっきバナナ食べたし…

そう思うと無性に恥ずかしくなってきた

その後もゆっこの話とはまらず気付けば一時間たっていた

その間、頭からバナナが離れず何を話したかもあまりわからないまま電話を切った

ノアは姉を見ていたため容姿に対する免疫はあったがその手の話は無知だった

最近ゆっここから入れ知恵されてから就寝前に携帯で検索するのが日課になっている

入学式の朝

携帯のバイブと共に「WHO」が鳴った

準備を済ませインターホンが鳴るのを待つ

しばらくするとゆっこが迎えにきた

玄関を開けてノアは固まった

そこにいたのは昨日までのゆっこではなく頭のとっぺんからつま先まで自分が理想とする容姿になっていたからである

ノアは最初はまずいと思い様子を見てからと思っていたがゆっこは全くそんなつもりはさらさらなかった

ノアおはよう 行こうか

ハッと我に帰り返事をするると自転車にまたがり学校に向かった

初めての制服初めての自転車通学初めて通う道

全てが新鮮だった

ノアは快晴の空の下、立ち止まって大きく息を吸い自転車を走らせた

高校は高台にあり駐輪場から校舎までは桜坂になっている
皆真新しい制服で桜坂を通り校舎にむかっている

ゆっここと二人で桜坂を歩きお互いの携帯で写メを撮った

校舎の前にはクラスが張り出されていてゆっこと同じクラスになればいいなあと思いつつながら見ていた

ノア別々だあ

ゆっこは早くも名前を見つけ教えてくれた

ノアは1 - Aで私は1 - Fだよ

違うクラスになったが階は一緒のため二人で階段をあげる

二階の端っこと端っこがお互いの教室になるので中央階段を上がったところで別れた

一人になり緊張してくると無意識に手に持っていたバックを胸の位置まで持ってきていた

1 - Aの文字が視界に飛び込むと大きく深呼吸をして教室に入った教室に入るともちろん初めての顔ばかり自分の机を探しながら回りを見渡す

これから一年一緒に過ごすクラスメート

おはよう！の一言が喉の奥でとまっている

ゆっこなら言えるんだろうなあと思いつながら自分が情けなく思う

挨拶も出来ないまま自分の机に座った

窓際の前から三番目

窓の外を見ると桜坂の中で1番大きな桜の木が真横に見える

ノアの心の中はこれから先の高校生活に希望で満ち溢れていた

一ヶ月も経つと桜もほとんど散りピンクに染まっていた桜坂も緑の森林コースのようになっていた

桜の散る頃はクラスの中も最初とは違い一人机に座っている光景は見られない

皆、気の合いそうな仲間を見つけ雑談をし友達を増やしていくごく当たり前の光景だが

ノアは中々輪に入れなかった

自ら入ろうとせずただ物足りなさを感じながらみんなと喋っていた

お姉ちゃんを自分に照らし合わせていたがイメージと掛け離れた学校に虚しさを感じていた

ノアのモヤモヤはとれずにクラスメートの輪の端っこで上の空だった

ゆっことは持ち前の明るさでクラスのリーダー的存在になりつつありクラスが違うノアとはあまり接する事もなくなっていた

(クシュン)

また風邪かなあ

期待していた高校生活にギャップを感じながら、もどかしい毎日を送っていた

本当は今頃お姉ちゃんみたいに彼氏つくって楽しい毎日を送ってるはずなのに

ノアの心の叫びも三ヶ月になろうとしていた

初夏の日差しはノアの心を照らす事なく汗だけが頬を伝っていた
自転車を走らせながらノアは思う

夏休みはバイトしよう

そこで出会いがあるかもしれないし

ノアはバイトを探し始めたが中々思うような求人が出ていない

コンビニ スーパー マックありきたりのバイトには興味がわかなかった

ハアなにかないかなあ

独り言をぶつぶつと言っていると携帯がなった

いつものように（WHO）が流れ ゆっこ の文字が見えた

もしもしノア？

久しぶり

元気？高校でクラスが別れ学校に馴染んでるゆっこ

まだまだ殻から抜けれない私はゆっことこの、からみもなくなっていた

久しぶりに聞くゆっこの声相変わらず元気なのと最近聞いてない彼氏の話も気になった

ノア最近からみないよねえどうA組？

F組はクラスいい感じだよカッコイイ人も何人かいるしみんな仲がいいよお

でね…私彼氏と別れちゃった

びっくりした

ずっと付き合ってた彼氏と何故別れたのか

喧嘩はよくしていたがなんだかんだでいつも仲直りしていた二人なのになんで…

ゆっこの話とはまらない

やっぱり違う高校になって入れ違いが多くなってねえ彼氏バイト始めて会う時間もなくなっ

てなつて気がついたらお互い連絡もしなくなって結局別れて友達に戻ろつてなつて

ゆっこは早々小6からその彼と付き合い始めて四年以上たっている恋愛だけならそこらの高校生よりキャリアがある

もう大人の仲間入りもしている

あのバナナ事件後ゆっこは実際にしてみたが中々上手く出来ないと
もらしていた

歯があたって痛いと言われたりもつと動かしてと言われたり…

今はどうなのかと気になるノア

しかし彼と別れたならする事もないかな

まだゆっこは続ける

でねえこの前mixiで知り合った年上の彼と会ったの

すごい大人っぽくて爽やかで元カレにない雰囲気だったんだよね

私すごい意気投合してねえそのまま彼の家にお泊りしちゃった

…??えっ?

またゆっこの衝撃発言

私の想像を遥かに越えている

お泊りしちゃった?

でその先が気になった

ゆっこは話を続ける

私も家の中に入った時は超ドキドキしたよ

部屋の中を見渡すか携帯触るくらいしか出来なくて

そしたら彼が優しく手を肩にまわしてきたの

もう身体は固まって心臓の鼓動がハッキリわかるくらいだし

彼そのまま何も言わず唇にキスすると同時に服の上から胸を触ってきてねえ

ノアは電話なのに聞いてて恥ずかしいのと身体が熱くなるのを感じていた

ゆっことは続ける

私断ろうと思っただけで雰囲気身を任せちゃったそのままベツトに行かずソファ―に横になって天井を見ていたの

優しくキスをしながら服をぬがされて彼の顔まともに見れなくてでね…彼が舐めてって

出た ノアは思った

何故こうも男の人は舐めさせたがるのか
それをしなければ先に進めないのか
私には絶対無理と思いつつながら話を聞いた

舐めてって言われたんだけど大きさと形にびっくりしちゃった

大きさも形も全然前の人と違って

口に入るのかな…って考えながら口に入れたんだよね

また違う世界が…

みんな一緒じゃないの

大きさ？口に入らない？私そんな大きいバナナ見たことないのに…
形ってどんなのがあるのかと思いつつながら鼓動が高まる

しかしゆっことはその後の事はあまり覚えてないと言っていた
ただ満足感と達成感で気持ちは満たされていた

結局付き合う訳でもなくたまに会うような関係になっている

そんな話を聞いた後

ゆっこがノアにいろいろ聞いてきた

ノア彼氏できそう？いい人クラスにいた？

ノアは彼氏以前にクラスに馴染めずにいたがゆっこの話を聞いた後にそんな事も言いたくなく言葉を濁した

ゆっこはしつこく聞いてくる

何か話題をかえないかと思えばバイトの話をつた

何？バイトしたいの？夏限定なんだけどピアガーデンのバイトあるよ
私するつもりだったんだけどノアも一緒にどう？

ピアガーデン？

聞いた事あるけど何する所なんだろう…

ノアは興味がわいた

ゆっこは続けて話をした

簡単な仕事だし時給はいいし一緒にどうかな？居酒屋の外バージョ

ンみたいなものだよ

今までバイトをしたことがないノアにとってイメージが全くわかないがゆっこがそこまで勧めるなら楽しそうだと思い行く事を決めた
入学前は化粧も制服もバツチリ決めて夏には彼氏を連れて歩いてるはずが現実とはうまくいかないものだをつくづく思った

高校生活初めての夏休み

一学期を振り返るとあつという間だったし特に目立つこともしなかった
だった

私が抱いていた理想の高校生活とはほど遠い

ブーブーと携帯が鳴った
いつもの大好きな(WHO)だ

ノア準備できた？
バイトまで時間あるけど早めに行って街ブラブラしない？
ゆっこからだ

今日は初めてのバイトの日ノアは化粧は終わっていたので着替えるだけと言うと30分後に家に来るとゆっこは言った

ノアは急いで準備した

服はお姉ちゃんから借りてかなり大人びて見える
化粧も濃いめにバッチリ決めていた

インターホンが鳴ってゆっこが迎えにきた

ゆっこはノアを見てびっくりしている

ノアどーしたの？

超かわいいじゃん

服も大人っぽいし一瞬別人かと思ったよ

ノアは元々目鼻立ちもハッキリしており髪は前髪をパツツンにして
おり長く伸びた髪は綺麗に手入れされていた

背や体型はいたって普通なのだが化粧をすることによって顔は別人
のように可愛くなっていた

ノアは照れ笑いをしながら家を出た

街に出ると軽く喫茶店で食事をした

やはりここでもゆっこの話題は男の話

ノアは話を聞いていると最近まで近い存在だったゆっこが一人でど
んどん大人の階段を上って行くのが、焦りと羨ましさにかわって
い
くのがわかった

早く私も彼氏作らなきゃ
そう心に思うノアだがゆっこの高校に入ってからの話には全くついていけない

mixi コンパ 男 そしてバナナと日本語と英語で会話してる
気分になる

バイトの時間も迫りトイレで化粧直しをして店を出た

まだ外は明るく同世代の女の子が楽しそうに街を歩いていた

ビアガーデンの場所はデパートの屋上にある

眺めがよく妙に開放感があった
そんな気分浸っているとマネージャーが二人を呼んで仕事の説明をした

仕事は注文を受けて運ぶという繰り返し
これなら大丈夫とノアは安心してフロアに入った

しばらくすると団体のお客さんがそろそろと来店しそれから閉店まで満員状態が続いた
忙しく時間が経つのはあっという間で気付いたら閉店前だった

初めてのバイト初めての接客
ノアは接客の楽しさを知った

店も終わりゆっここと店を後にしたがバイト中は忙しくお互い視界に入らなかったなどバイト話に花咲いた

ノア聞いてえ

おじさん私呼ぶ時通り過ぎた後にお尻触って呼ぶの

マジきもいけど笑って流してねえ

後注文もないのにテーブル呼んで携帯番教えてとかねえ

超いっぱいあったよ

ゆっこはいつもの口調で喋り続ける

ゆっこは昔から活発で背は高くスラリと伸びた足はすれ違う人は目で追ってしまうぐらいだった

モデルの仕事ができそうなのになあといつも思っていた

ノア大丈夫だった？

いきなり今度は私にふってきた

ゆっこらしい話の流れだ

振り返ると確かにお尻を触られたり歳聞かれたりいろいろあったなあ
あと思った

忙しく何より初日ということもあって緊張してたせいか言われるま
で気にならなかった

二人は尽きる事のない話で盛り上がりながら帰っていった

夏休みこれといって出会いもなくただビアガーデンと家とを往復する毎日だった

ビアガーデンも楽しいがこのままで夏休みも終わりたくないという気持ちがあった

しかし自分で何かする訳でもなくただ時間だけが過ぎていった

ゆっこの誘いでバイト前に街をブラブラしていた
週末と言うこともあり街は賑わっていた

ゆっこが知らない男の人と話をしている
ノアはそれを見ているだけだったが話が終わりゆっこが戻ってきた

誰？
知り合い？
ノアは聞いた

知らない
ナンパだよ

イケメンだったし番号だけ交換してきたよ

えっ？知らない人に番号教えたの？

うん

だって友達ふえた方が楽しいじゃん

…友達…ゆっこはこうやって友達増やしていくのか…私には無理だなあと思いつながら歩き出した

この前ナンパされた人とは最後までいつちゃったよ
まあ夏の思い出だね（笑）

はっ？…最後まで
ノアは頭の中にあるんな妄想が浮かんだ

最近夜寝る前に携帯で大人のチャンネルを検索するのが日課になっている

全く無知だったノアもゆっこの話と寝る前の日課で人並みに話についていけるようになった

しかしゆっこの行動は理解できずアイツチをうつしかなかった

ノアもそろそろ大人になったら？
誰か紹介しようか？

えっ？

紹介？ノアは一瞬固まった
いきなり知らない人を紹介されても喋れるはずもなく全身を使って
慌てて断った

とりあえずメールからでもしてみなよとゆっこは言うがやはり知らない人と連絡するには抵抗があった

ゆっこは気が向いたら言うてくれれば誰か紹介するからと言ってくれた

今日もいつもの道をいつもの二人でいつものように歩いてる

(クシユン)

ノアは相変わらず鼻をすすりながら明日からの学校の準備をしていた
気付けば夏休みも終わりかけ
というより24時間きっているし

マジ終わってるしい

夏休みの思い出…

ピアガーデンしかないなあ

あっという間の夏休み

しかし気持ちには変化はあった

二学期からは自分のしたいようにしよう

そう思った

いつもより一時間早く起きてついこの間までお姉ちゃん場所だった洗面台に立っていた

朝から念入りに化粧をして髪も巻いた

親からは姉妹そろってと呆れ顔をされたが姉妹なんだからするんじやんと心の中で思っていた

いつもの時間にインターホンがなりゆっこが迎えに来た

またしてもゆっこを見て驚いた

髪は染めてエクステを付けていた

おはよう

ノアどう？

昨日バイトしたお金でエクステつけたんだあ

似合うかな？ちよっと恥ずかしそうにゆっこは言った

ノアの常に先をいくゆっこ

二人とも夏休みで成長し自己表現もうまく出来る様になっている

ノアは笑顔で誉めて写メを一枚撮った

行こうか

二人はいつもの道をゆっくりと喋りながら学校へ向かう

まだ残暑が厳しく汗ばみながら自転車を走らせノアは雲ひとつない空を見上げ力いっぱいペダルをこいだ

Cherryblossom(後書き)

最後までお付き合いありがとうございます

まだ一部なので

これからが始まりです

近いうちに二部投稿しますのでまたお付き合いください

秋桜

二学期も始まり

クラスは全く違う雰囲気になっていた

夏休みが終わるとこんなにみんな変わるとは…

入学当初の面影が全くなっている

夏は人を成長させるなあとノアは改めて思った

クラスの雰囲気は妙に親近感を覚えうれしくなった

いつもの席…

窓側の前から三番目

朝日が眩しく目を細めて外を眺めるとグラウンドで野球部が練習をしている

トントン

肩を叩かれた

おはよう

久しぶりだねえ

夏休みどうだった？

話かけてきたのは三井まい略してミーマイ

明るくクラスの中心的存在派手な化粧と常に盛ってる髪がミーマイの特徴

ただちょっと怖い人達との繋がりがあるようで下校時には真っ黒な車が迎えに来る

ノアはあまり好きな感じではなかったが無視する理由もないので話を合わせた

ノアちゃん変わったねえ

かわいくなつたよ

彼氏できたでしょ？

…彼氏

スーパーに大根を買いに行くぐらい簡単に彼氏ができるならどんなにいいか

だいたい私はどんな人を求めているんだろう

どこの会話も恋愛の話

ミーマイに相談したところで解決する訳でもないしなあ

隠す事もないので素直にいないと言つと

彼氏いないの？ねえ私の彼氏の友達でフリーな人いるんだけど会って見ない？

…無理だし
心の中で思う

会いたくないし関わりたくないしノアは思う

なぜならミーマイの彼氏がまず生理的に受けつけない
平成も20年以上経ってるのに昭和の歴史の教科書に出てくるよう
なああの身なり…

天然記念物にしか見えない人達とどう交われというのが

大丈夫だよ　ありがとう
と断ったが

ミーマイは一人で盛り上がっている

四人で会うからと
食い下らない

何故そこまでして私に紹介したいのか
ちよつとイライラしてきた

余りにしつこいのでちよつとだけならと承諾した

ミーマイはホツとした様子で放課後ねと言葉を残し自分の席に戻った
なんか違うんだよなあ

出会いは突然じゃないけど私の理想わ
ドラマの影響が手伝ってか求めるハードルがかなり高くなっている

今日はとりあえず会ってすぐ帰ろう

面倒だと思いながらも断りきれない自分が嫌になる

放課後約束通りミーマイと一緒に校門で彼氏が来るのを待っていた
すると3キロ先からでも聞こえるような絵に書いたような車で校門
に横付けした

言葉にならない

…何がいいのか？

人に迷惑をかけてるという意識はないのか？

そもそも良心という言葉を知っていればもっとまともな車に乗って
来るだろう

早く帰りたい…

ミーマイがノアを紹介する

同じクラスのノアちゃん

キー坊は？彼氏に聞くと仕事先から直接来るとのこと

気まずい空気が流れる中、またしても電車がこっちに向かってくる
かの騒音でバイクが近づいてきた

車の後ろで止まってこっちを見てる

…帰ろう

もうこの場所にいるのも嫌だしみんなに友達と思われるのも嫌だ

バイクを降りこっちに向かってくる

彼氏に挨拶をすると

彼氏が紹介した

朝比奈瑞樹

俺の後輩で年は17

高校は行ってなくて仕事してるよ

みんなからはキー坊って呼ばれてっから

もう私には何も言う事はない

今考えてるのは一秒でも早くこの場から脱出すること

彼氏がミーマイに車に乗れと言っている

するとミーマイも当たり前のように助手席のドアを開けている彼氏がキー坊に

紹介したから後は二人で適当にしてくれな

…超無責任

これを紹介と言うのだろうか…

お見合いなら即、破談になるだろう投げっぱなしの紹介

ミーマイは助手席の窓から頑張つてと手を振り車は走り出した
またとんでもない騒音をたてながら

目の前にいるのはほんの5分前に紹介されて一言も交わしていない男の子が一人

何を喋っていいかわからない

沈黙しているとキー坊が突破口を開いた

俺の紹介はさっき聞いた通りだよ
簡単にプロフ教えてよ

なんなんだ

この馴れ馴れしさと言葉の軽さわ

初対面とは思えない口調でキー坊は問い掛けた

ちょっとムツとしながらも名前と年を教えた

ノアはここまですればミーマイに明日会っても何も言われる事もないだろうと思ひ帰る事を伝えると

笑いながら

まだ会って10分じゃん

バイクの後ろ乗りな

軽くブラブラしようぜ

えっ？

この品性のかけらもないバイクで？
気持ち悪く鳥肌がたった

口調も気に入らないがこのバイクは全く受けつけなかった

無理と断り駐輪場に向かおうとすると
キー坊は

何？

自転車がいいの？

なら自転車二ケツでブラっころうか

足りない人って言うのは、まさに目の前の人の事なんだろうとため息をついた

一人で帰ると言うこと

駐輪場から勝手に自転車を持ち出してきて

俺これでいいわ
なら行こうか

…馬鹿いや人として間違ってる

全く知らない人の自転車をためらう事なく乗っていきこうとしている
…泥棒じゃん

大きくため息をついてバイクは嫌だったので近くの公園に歩いて行くことにした

早く帰りたいたい…

そう思いながら歩き始めた

しかし背高いなあ

いくつあるんだろう

キー坊は背が190ちかくあり髪は長く明るく染めておりカチユウシヤで髪を上げていた

なんで私がこんな事に巻き込まれなきゃいけないんだろうと思いつつ早足で公園に向かい近道をするため路地を曲がった

公園につくなりキー坊はタバコに火を点けた

今日だけだから…

ノアはもう何も言わずただ時間が過ぎるのを待っていた

その間キー坊は

いろいろ聞いてくる

適当に流しながら
そろそろいいだろうと思ひ帰ると言つと
携帯番交換しようと言つてきた

もう会う事もないから
交換はしたくなつた

しかしキー坊は引き下がらない
仕方なしに赤外線番号を交換した

二人は来た道を歩き始めた

ノアは一つだけ気になる事があつたので聞いてみた

なんで今日わざわざ紹介受けて学校まできたの？

キー坊は軽い口調で言つただつて出会いって待つててもないじゃん
運命とか信じないし自分で行動して自分で決めた人と付き合いたい
じゃん

えっ

初めてまともな事を言つてゐる
むしろ私のモヤモヤを一発で見抜かれた気分になつた

駐輪場着くとキー坊が
連絡するから
また会おうと言う

心の中ではもう会う事はないと思っていたが返事だけはしといた

日は落ちかけ

何か嘘をついたという罪悪感を感じながら自転車を走らせた

次の日

学校へ行くとミーマイが直ぐさま話し掛けてきた

どうだった？

キー坊？ノアはとりあえず昨日の出来事を全部話した

ミーマイはちよつとがっかりした感じで

タイプじゃなかった？

と聞いてきた

タイプも何もあんなにでたらめな人初めて見たし友達にもなれる訳がない

しかしミーマイには言えず

番号だけは交換した事を伝えた

その日からキー坊のメールはおはようメールから始まっておやすみメールまで毎日くるようになった

メールの返信に関係なくキー坊からのメールは続いた

ノアには全く会う気はなかったただ携帯の画面だけの付き合い顔を見なければ気楽だし重荷になることもなかった

いつもの「WHO」と共に携帯が鳴った

ノア？

何してる？

ゆっこからだ

今ねえ

F組の友達とその友達でマックいるんだけどこない？

ノアは時計を見た

九時を回っている

今出たら親がうるさいから家抜けるから10時過ぎでも大丈夫？

ゆっこは大丈夫と言って電話を切った

なかなかタイミングが計れず結局家を抜けたのは11時過ぎだった
マツクは家から歩いて5分ほどのところにありみんなのたまり場にな
っていた

マツクに着くと

一番奥の席にゆっこ達はいた

一見高校生には見えない雰囲気をみんなしていた

ノアこっちだよ

手招きしてノアを呼ぶ

奥に行くゆっこを入れて七人いた

ゆっこがノアをみんなに紹介した

皆、ノアに視線を集める

ノアは軽く会釈をしてゆっこの隣に座った

知らないメンバーばかりだがゆっこが一人ずつ紹介してくれた

高校もバラバラだが年はみんな一緒だった

ゆっこがおもむろにタバコに火を点けた

えっ？
…ゆっこ

いきなりタバコを吸うゆっこの姿を見て驚いた

キー坊が吸った時は
何も思わなかったが
ゆっこは小さい頃からの友達

ノアはゆっこに注意した

するとゆっこは笑いながら言った

ノア
タバコ吸うのなんて普通だよ
周り見てみなよと煙りを吐き出す

周りを見てみると喫煙率が100%
…
これが普通？
タバコは二十歳からって決まってるじゃん
そう思うが言葉にできない

ノアも吸う？

ノアは首を横に振るだけだった

無性に悲しくなった

何十年も一緒のゆっこの事は何でも知ってるつもりだったが
今、周りにいる友達の方がゆっこと打ち解けてるように見える

なんか

どんどん取り残されるなあゆっこが特別大人びて背伸びしてた訳じ
やないんだ

周りをみればみんな同じような事してるし…

別にいい子ぶってる訳じゃない

真面目な訳でもない

ただ今までの自分の価値観や環境がこんなにも掛け離れているなん
て…

ノアは頭の中が整理出来ずにゆっこが準備してくれていたバニラシ
エイクをすすりながら遠くを見ていた

時計は深夜を回っていた

一通りみんなと会話をかわし話も盛り上がってきた

話題はいつの間にか性のお悩み相談になっていた

ノアは口数が少なくなり聞き手に回っていた

一人の子が話始める

この前した男マジ下手くそでさあ、股超痛くなっただし
てかエロ動画見すぎか知らないけどやたら激しく指動かすから濡れ
ないし気持ちよくないしマジ終わってたよ

だから一回でバイバイだったし

…うわあ

ノアはほとんど溶けたシェイクに口を運んだ

男ってさあ

ヤル事しか頭がないよねえコンパであからさまにやるオーラ出てる
奴とかマジうざいよね

結局男ってできれば誰でもいいんだよ

だから浮気もするし他の女に目移りするしね

ねえノアちゃんそう思わない？

いきなり振られたノアは、くわえていたストローを噛んだまま固ま
ってしまった

ゆっこが会話に入る

ノアはまだ未経験だよ
ピュアガールだからそこらへんよろしく

すると

ええ

ノアちゃんバージン？
何で？彼氏いないの？

ゆっこの友達だからイケイケかと思ったよ

ノアは一人だけついていけないのが恥ずかしかった
みんなの視線が妙に痛い

ああこのまま貝になりたい…

しかしここで話を中断させるのもかなり気まずいので逆に話を聞きたいとみんなに言った

すると何事もなかったように話は続いた

みんな経験してるんだあ

私が遅れてるのかなあ

自問自答をしながら耳だけは話に傾ける

また一人が切り出した

男の人のって最初、小さいのに触ったり舐めたりするとなんであんな大きくなるのかなあ

ビョーンって伸びるし

口の中に入れてたら生き物みたいだしね

その子は右手を軽く握った仕草で手首を上下させてみせる

あっバナナ…

ノアはゆっこ直伝の

バナナ講座を思い出した

ゆっこから聞いた時と違ってかなり免疫はついていたが話がかかなりリアルに感じる

他の一人が続く

てか私なんかこの前援交した親父からおしっこかけてって言われてドン引きしたけど

一万さらにくれるって言うから風呂場でしたよ

マジで？

そのおっさんキモくねえ

みんな爆笑している

シェイクを飲む口が止まった

…援交

初めて目の当たりした

テレビなんかじゃよく見ていたがしてる本人から話を聞くとわ

ノアは空気のようになり耳だけ傾けていた

キモすぎその親父

また別の子が話始めた

そんな事よりもっと楽勝な方法あるよ

この前パンツ五千円で売ってってオジさん言われて一緒に売ったよねっゆっこ

えっ？ゆっこ…

聞き違いであってほしいと思いつつここに視線を送る

しかし会話を振られたゆっこは気まずそうにノアをチラッと見る

ゆっこ…

ノアは胸の奥から何かが入り込みにくくなってきたのがわかった

目の辺りが熱くなって涙を堪えるのが精一杯だった

何でゆっこが…

気まずい空気に周りはすぐに話題を変えたがその日ノアとゆっこは

会話を交わすことはなかった

帰り道さっきの話を思い出し、涙を流さないよう空を見上げた

満天の星空

涙で星がいくつも重なって見えた

何事もなかったように朝からいつものように洗面台の前で身なりを整える

もう完全に朝の洗面台はノアの一人舞台になっている
昨日の出来事がショックで中々化粧にも力が入らない

それに加えて流石に朝方まで起きていたので眠い

サボろうかな…

化粧をしながらそう思うが中学時代からサボった事のないノアはな
んだかんだ言っても準備を始めた

外に出るとパラパラと雨が降っていた
ますます行くのが嫌になりため息をつく

はあ…

なんか力入らないなあ

ぶつぶつと独り言をいいながら自転車を走らせた

十字路を曲がると目の前にコンビニがある

やたらバイクがとまっているが、どれもまともといえるようなものではない

キー坊を思い出す

キー坊の事を散々ありえないと思っていたが
昨日の話を聞くと彼女達も変わらないように思えてくる

Hな話には興味はあるけど彼女達がやってる事は犯罪だし何より好きな人以外と何でできるのか理解できなかった

自転車を走らせる

後ろからすごい騒音が聞こえてくる
騒音はノアの自転車の真後ろで聞こえる

えっ？

振り返るとヘルメットもつけず大股を広げ運転しこっちを見ている

…キー坊？

ノアは自転車をとめた

するとバイクもとまり話かけてきた

やっぱりそうだ

ノア久しぶり

そのコンビニにいたんだけどノアにそっくりだったから追っかけてきたよ

まさかこんな所で再会するとわ

メールのやり取りはあったがほとんどキー坊からの一方通行

あの返信に関係なく毎日のように送信してくるキー坊

ノア暇？

今から遊び行かない？

…抜けすぎている

今制服を着ている私に暇と聞いてくる無神経さ

私がTSUTAYAにでも行くように見えるのだろうか
この男には…

空にも浮きそうなくらい軽い口調で話を続ける

学校に行くと言って再び自転車を走らせると

また騒音が響いた

…ついてくる

また自転車をとめた

学校行くからついてこないでと言うとキー坊は

なら放課後、校門で待ってるからと言うとアクセルを開きコンビ二
の方に戻って行った

…全く会話のキャッチボールが出来ていない
相手の話を聞く事が出来ないのだろうか

離れて行くバイクを見ていると無性にイライラしてきた

絶対会わない

ノアは呪文のように何度も口にしながら学校へ向かった

ノアの周りで起きてる事とは関係なくいつも通りに授業が進んで行く

ノアは窓の外を眺めながらぼーっとしていた

雲がゆつくりと流れている子供の頃を思い出した

雲乗ったらどこまで行けるのかなあ

今思えば馬鹿らしいが当時は真剣に乗れると思っていたし雲はどんな味がするのか気になっていた

雲の形がいろんな形に見える

うさぎやキリン

林檎やイチゴ

あつ日本の形もあるなあ

…バナナ

というよりあっちの方が近い

ジーツと見ていると大きくなってるように見える

実物を見たことのないノアだか携帯の動画で見た事はある

その時は、まともに見る事も出来ず恥ずかしさと興味が入り交じりながら見ては消しての繰り返しをしていた

Hがどんな感じなのかはイメージ出来ていたがオシッコする所に入れるのはイメージできないでいた

生理の時初めてタンポンを入れた時の感触：

あんな小さくないだろうし

柔らかくもないんだろうと思うと私の身体に入るか心配にもなる

何よりも最初は痛みしか感じないとゆっこも言ってたし話には興味があっても自分がしたいとはあまり思わなかった

あんな雲くらい大きいのもあるのかなあ

くだらない妄想を膨らませていると雲の形は徐々に形を変え空に吸い込まれていった

前にサイトで見た事を思い出した

妄想は現実を起こりうる事しか妄想できないと…

じああ私の想像してる事は起こっちゃうの
考えていたら恥ずかしくなってきた

チャイムが鳴り
ハッとした

ノアは頭の中で考えていた事を振り払うかのように早足で学食に向かった

いつもはゆっこを誘って行くのだが学校には来ていない

二学期になりゆっこは休みが目立つようになってる

毎晩昨日のように遊び回っていれば起きれるはずもなかった

昨日のメンバーから考えれば朝から学校に来ているノアの方が考えられないかもしれない

今日は何食べよう…

学食の前でメニューを見ていると後ろから話かけられた

ミーマイだ

ノアちゃん一人？

よかったら一緒に食べない？

ミーマイはクラスの友達と二人で来た

今日は一人で食べたい気分だったが
断る理由もなかった

結局三人で食べる事になり窓側の席に座った

頼んだサンドイッチを口に入れると早速ミーマイが喋り始めた

ノアちゃん

キー坊とどうなってるの？

…きた

そうなるよね

わかってはいたが実際聞かれると何て言えばいいか…

朝バツタリ会った事を話すか

一方的なメールの話をするか

考えてもうまく流せる返事が見当たらない

とりあえずメールはしてると言つと

本当？

うまくいってるんだあ

よかった

紹介して

…ミーマイ

どうしてそんな答えになるのかな

メールしてるのも向こうからの一方通行なのに

やはりミーマイもあの彼と付き合うだけあってかなりのプラス思考である

ミーマイは続ける

なら今度は、ユアにも紹介してあげる

ノアは思う

ええ…それはまずい

ユアはミーマイと一緒に学食に来たクラスメート

おっとりしていてちょっとポツチャリしている

容姿は、けして良いとは言えないがよくいる痩せれば絶対かわいいタイプ

実際中学の時は痩せていて元カレとの写メを見せてもらった事がある

その元カレとの別れが今の体型になる原点になってしまったみたいだが…

しかしミーマイの彼氏の友達はマズイ

経験者として被害者を増やさないようにしなければ

とてもユアに昭和の香水は合いそうもない
止めなきや…

しかしユアは即答した

マジで？ミーマイお願い
超彼氏ほしいしい
カツコイイ人お願い

ああ…ダメだよユア
しかも即答で返事して…

私はあれだけ拒んでやむなく行った結果がこれだし
ユアも自分と同じレベルに乗せられたと思うと肩の力が抜けた

何故ミーマイは彼氏の友達をそんなに紹介したいのか？

他の人にも幸せになってほしいから？
それとも自己満足？

紹介して満足してるならしょうがないが、幸せになってほしいと思
っているなら紹介しない方がいいとノアは思う

そんなノアの気持ちに関係なく話は盛り上がり紹介してもらおうみた
いだ

ノアは何も言わず残りのサンドイッチを食べた

放課後が近づきノアは憂鬱になってきた

本当に来てたらどーしよう

今日は自転車置いて帰ろうかな

でもあのコンビニに明日もいたら同じだし…

いい方法を考えようとするが思いつかない

時間だけが過ぎ放課後になるとノアは覚悟を決め駐輪場に向かった

覚悟を決めたが中々前に進まない

校舎から駐輪場まで続いている桜坂は緑の葉に交ざって茶色く変わった葉も目立つようになってい

歩けば前に進む

当たり前だが今日は進んでほしくない

下を向きながら歩いていると駐輪場の方から呼ばれた

ノア

こっち こっち

真っ白のジャージに片手をポケットに入れて手を上げている

…本来てる

逃げ場のないこの状況

下校してるみんなはキー坊に目をやった後、私の方を見る

どう見ても彼氏が彼女を迎えに来てる光景にしか見えない

…逃げたい

しかしキー坊はそのままノアに近づいてきた

ちょうど今着いたとこだよ早めに来たつもりだったけど高校って終わるの早いな

ああ…

今来たなら悩まずいつものように帰っていたら会わなかったのに…
ノアは後悔する

…あれ？

あの迷惑なバイクが見当たらない

バイクどこ止めたの？

ノアは聞いた

ああ

バイク絶対乗らないって言うしあんまりいい顔してなかったからチヤリで来たよ

びっくりした

全くそんな事気にしそうにないのに考える頭あるじゃん

そう思うと自然と笑みがこぼれた

なあとどこ行く？

なんか拍子抜けしたノアはこの前の公園でいいよと自然に言葉が出た
自転車に乗り、今日は路地を曲がって近道をせず真っすぐ進み公園
に向かった

校門から見える二人の後ろ姿は
恋人のように周りには見えていた

秋桜（後書き）

続けて二部目を投稿します

沢山の人に読んでもらえると今後の励みになります

啓翁桜 1

なんだか前回とは全く違う気持ちで公園に向かっている

横に目をやると190近くある男がジャージを着て自転車に乗っているのは異様な光景に見える

しかしバイクよりは全然マシだし何より相手の事を考えて行動したキー坊に感心していた

さっきまであんなに悩んでいたのに今の気分は妙に落ち着く

しかしキー坊の容姿はやはり受けつけない

公園に着くとベンチに座りキー坊はタバコに火を点けた

大きく息を吸い

空に向かって煙を出す

そしてキー坊はこちらを向いて喋り始めた

啓翁桜 2

なあ俺と付き合わない？

…いきなり何をいい始めるかと思えば…
ちよつとまともな所もあるんだと感心した自分が馬鹿らしい

この男に常識はないのか？おはようつて挨拶するぐらいの感覚でいるのか？

キー坊は続ける

俺達知り合ってから沢山メールもしたしお互いの事わかってきたじやん
そろそろいいよね？

…何がいいのか
メールは一方的に送ってくるし何より会ったのは二回目でお互いの何がわかっていのかこの男にわ

ノアの事好きになっちゃたしもっと知りたいから

まだ言ってくる

…話にならない

好きって言われたら嬉しいはずがこつも軽く言われると何も感じないしイライラもしてくる

なあどう？

返事わ？

…返事？

無理でしょう…

ノアはそういう事は考えてないと伝えるとキー坊はさらっと言った

付き合ってみないとわからないじゃん

俺達相性バツチりだよ

俺と付き合えば間違いないよ

何と言う自己チューな発想

相性？

どう見てもプラスとプラスでしょう

まず引き合う事はないし付き合う事が間違いだろっね

この人は付き合っつてどう考えているのだろうか

ノアは聞いてみた

私と付き合ってどうしたいの？
だいたい私のどこがいいの？

するとキー坊はタバコを吸いながら言う

ノアの全てだよ
ノアと付き合っていつも一緒にいたいし抱きしめたいしキスもしたい
もちろんエッチもね
とにかく全部だよ

…えっ？

いきなり何を言うかと思えばここまでストレートに言われると逆に
恥ずかしくなる

オープンな性格なのは解るがデリカシーが全くない
過去に付き合った女の子はどうしてこの人を選んだのだろうか？あ
あやっぱり私には合わないな…

よし

じゃあ決まりな

付き合ってみてダメな時は言って
その時は諦めるから

無茶苦茶だ…

何も決まっていないうつき合はずもない
自分勝手もいいとこだし今諦めてもらわないと困る

ノアが断ろうとするとキー坊は立ち上がり仕事に行くといい自転車に乗った

なら行こうかノア

また明日会いに来るよ

言うタイミングを逃したノアはいつ切り出すか考えながら自転車に乗った

二人は来た道を帰り始めたが二人の心境は行きと全く違う方向に進んでいる

完全に浮かれるキー坊

来た時はちょっと見直したがあまりの自己チューぶりに困惑するノア

二人の気持ちはそれぞれ違う方向に向かい始めた

次の日

ミーマイが笑顔で話しかけて来た

おめでとうノア

付き合いはじめたんだって？

最初は無理かなあって思ってたから付き合い合つとは思わなかったよ

本当よかったね

…違う

何もめでたくないし付き合いでもない

キー坊はすでにミーマイの彼氏に言っただろう
ため息が出る

そうじゃない事を伝えようとすると横からユアが

いいなあノア

ミーマイ早く私にも紹介してよ

…私に説明させて

そう思うがミーマイが続く

ユア任せて

超いい人紹介するから

ミーマイは自信がある口調で言った

ノアとキー坊が付き合い合ったと聞いて、かなり強気に言う

…ああ

どーしようもないな

時間が経つのを待とう…

ノアは肩を落とし大きなため息をついた

今日は珍しくゆっこが学校に来ている

会う度に派手にそして輝いて見える

ノアはゆっここと久しぶりに学食でご飯を食べた

あの日以来だったので頭の中にはモヤモヤが残っていた

ゆっこは話始める

どう？

最近？

私も学校休んでばっかで中々会わないけど彼氏できた？

ああ…いきなり

1番聞かれたくない事を最初に切り出してきた

だいたいノアは付き合ってるつもりはないが向こうはそうは思っていない

どこから話せばいいのか…とりあえずうまく説明は出来ないが話をしてみた

マジで？

何それ？

そいつめちゃくちゃじゃん

ノアとは絶対合わないよ

辞めときなよ

ゆっこはそう言うのが辞めるも何も最初から付き合ってるつもりはない

そんな話をしながらもノアはこの前の話が気になってしょうがない

小声で話題を変える

ゆっこ…この前のパンツの話…

そう言うゆっこは少し表情が険しくなり言った

あれねえ

ノアびつくりしたでしょゴメン

友達がどーしてもって言うから断れなくて一回だけだよ

なんか雰囲気的に断れない時ってあるじゃん

ノアは全く納得できない
雰囲気で

パンツを売らないし

そんな人達を友達と呼べるのか？

ノアは真剣にゆっこに話をしたが

ゆっこはわかったと二回言って話を変えた

明日さあコンパあるんだけどノアも来ない？

ほら覚えてる？

夏にバイト前ナンパしてきた彼

連絡してきてコンパしようって

…聞いてない

ゆっこにとってパンツを売るのはフリマで服を売ると同じ感覚なのか…

半分飽きれるのと自由奔放なゆっこを羨ましくも思う

しかし初対面の人と話せる訳もないしコンパなど行った事もない

一応キー坊と形だけは付き合ってる事になっているし気持ちがない

とはいえ罪悪感がある

やっぱりコンパは無理かなあ…
いろんな気持ちがあ錯する

ゆっこは明日の昼までに返事してくればいいと言ったがこの流れだと行かないだろうなあとノアは思った

放課後久しぶりにゆっこと一緒に帰ることになり桜坂を歩いていた

ノアこっち

こっち

…えっ？

視線を前にやると見たことのあるでかい男がタバコを吸いながらこっちに歩いて来る

ノアはその場に立ち止まった

ゆっこがキー坊とノアを交互に見ながらビックリした顔で見ながら言った

ノアの言ってた彼あの人？超ヤンキーじゃん

ノアとじゃ…

さすがのゆっこも言葉に詰まった

ノアから想像出来る男の範囲を完全に振り切っていた

そんな二人の心境などお構いなしに近づいてくる

おお今日は早めに来たよ

…今日も本当に来るとわ

考える力は足りないのにやたら行動力はある

キー坊の気持ちとは反対にノアは肩を落とした

キー坊はゆっこを見て軽く頭を下げた

友達？俺瑞樹ってんだけど今ノアと付き合ってたよね
よろしく

…軽い

しかも付き合ってたないし

ゆっこはノアから昼間話を聞いていたので愛想笑いをするしかなか
った

二人一緒帰るの？

なら俺も一緒行くわ

えっ困る…

ゆっこことキー坊が顔を合わせたのが予定外なのにさらに一緒に帰る
となると問題が多々ある

ノアはキー坊に

今日はゆっこと久しぶりに中学の同級生のところに行くからゴメン

マジで？

せっかく来たのに

ちよつとくらい話していこうぜ

…来てくれていていつ言った超わがまま

だいたいいきなりきてなんでこんな偉そうにしてるんだ

ノアはイライラしながらも我慢して言った

本当時間なくてみんな待たせてるから
ねえゆっこ

ゆっこもとっさに

うん

瑞樹君ゴメン

今日はノア借りるわ

さすがゆっこ

臨機応変に対応する

ああならしょうがないなあなら明日の夜会おうか

ゴメン

明日の夜は前からゆっここと遊び行く約束してるんだよね
また私から連絡するよ

珍しくノアの口からうまく言葉が出てくる

それくらい必死なものもあったが早くこの場から去りたかった

そのやり取りを見ていたゆっこも驚いていた

キー坊は不満そうだったが校門の前で別れた

別れ際に絶対連絡しろよと一言いって

二人になりゆっこが言った

ノアすごいじゃん

超うまくかわしてんじゃん別人みたいだったよ

ノアはまだ心臓がバクバクしている

必死だった為何を言ったかあまり覚えていない

ただ最後に連絡しろよの言葉だけは、はっきりと覚えている

ゆっこが話を続ける

さっき明日、私と遊ぶって言ってたけどオツケーでいいの？

…言ったかも

ああ…どうしよう

行き当たりばったりとはこの事なんだろうなあ

悩んでも仕方ないかあ

さっきは話合わせてもらったし行ってみようかな

ノアが行くと言うと

ゆっこは喜びながら明日はいい出会いがあるといいねっと言った

その日の夜キー坊からのメールにノアは明日のコンパに行く後ろめ
たさから珍しくメールのやり取りをした

自分をごまかすかのように…

いよいよ明日は初めてのコンパ

今までにないドキドキ感を感じながらベットに入った

啓翁桜3

初めてのコンパの日

ノアは落ち着かずソワソワしていた

準備をしているといつもの W H O が流れた

おはよう

今日大丈夫？

準備出来たら早めに街行ってブラつこう

ゆっこからだ

ノアは準備が出来たら連絡すると伝え電話を切った

昼過ぎからゆっこと一緒に街に出た

時間まで結構あるねえ

カラオケ行く？

ノアは頷きカラオケに行く事になった

二人でカラオケに行くのは久しぶりだ

中学時代はよく二人でカラオケに行っていたが高校生になってから一緒に行く事もなくなっていた

ノアは初めてゆっこことカラオケに行った時、ゆっこが歌った W H O を聞いてから着うたはずっと一緒のまま

何か自分と照らし合わせたら妙にしっくりきた

それからカラオケに来たら最初に歌う歌はいつも W H O と決めている

フリータイムで歌い続け待ち合わせの時間になったので待ち合わせ場所に向かった

向かう途中キー坊からメールがきたが気まずさもありません携帯を閉じた

待ち合わせの店の前には男の人二人が立っていた

ゆっこが

あっ

あの人達だよ

と言うと小走りに彼らの方に向かって行った

ノアはいよいよ初めてのコンパを前に気持ちが高ぶると同時に口
の中が渴いて唾を飲み込んだ

これから想像を越える出来事が待ってるとはノアは知るよしもな
かった

啓翁桜 4

店先で合流した二人は軽く頭を下げ店へと続いた

ノアはまともに顔を見る事が出来ず下を向いたままゆっこの後をついでいく

ゆっこは積極的に話をするがノアはもちろん話し掛けられない

店に入るとノアは驚いた

今まで入った事がないくらいお洒落な店である

ああ

大人の人っていつもこんなところで食事しているんだあ

ファミレスしか知らないノアにしてみればお酒を飲む店は新鮮であり興味の固まりであった

席に座り目の前には知らない男の人が座っている

ノアは落ち着かずそわそわしていた

するとゆっこがとりあえず飲み物頼んで自己紹介しようか

と言った

みんなビールを頼むと言うがノアは飲んだ事もない

ノア

何飲む？

お酒大丈夫？

∴ 飲める訳ないじゃん

てかいつから高校生がお酒飲めるようになったの∴

ゆっここのためらいのない当たり前のような行動にびっくりする

ゆっこはもう大人なんだなあ

私の知らない事いっぱい知ってるし何より経験してるしなあ

そんな事を考えながらノアはオレンジジュースを頼んだ

まずはゆっこが切り出し自己紹介を始めた

さすがゆっこ

照れる事もなく慣れた口調で話す

ゆっこが話が終わるとノアに振ってきた

ノアです

…精一杯だった

一言だけで言葉はもう出てこなかった

男の人達が自己紹介する

初めまして

俺達もつていいいます

年はハタチで普段は大学行ってるよ

…えっ

ゆっこの元カレと同じ名前じゃん

懐かしいなあ

たっ

ゆっこと四年付き合って高校に入って別れた元カレ

ゆっこの初めての彼であり初めての相手である

なんかどことなくたつに似てるなあと思っているともう一人が喋り始めた

初めまして

名前は大樹っていいます

年は19でたつと同じ大学行ってるよ

ノアの目の前で自分の事を話す大樹にノアは好感を持っていた

こういう人が大人っていうんだよなあ
雰囲気も言葉遣いもしっかりしてるし

脳裏にキー坊がよぎった

ため息が出る

なんでこつも違うんだろう…

初めからこういう人と出会えればよかったのに…

時間が経つにつれて緊張もほぐれコンパの雰囲気慣れてきた

ノアちゃんさあ

彼氏いるの？

大樹が聞いてきた

…えっ

どーしよう

何て答えればいいのか悩む

キー坊と付き合ってるといえるだろうか

一方的な話で私の気持ちは無視されてるし、だいたいなんでこんな
に私が考えなきゃいけないんだろう

ねえ？ノアちゃん？

ノアはいないよと答えると大樹は笑顔になった

少し悪いような気もしたが今日だけだしキー坊の対策は後から考え
ようとノアは思った

その後も話は盛り上がり、いつの間にかゆっこは達也とノアは大樹
とペアーになっていた

時間も経ち店を出る事になったが会計の際ノアはびっくりした

お金はいいよと二人はいう

ノアは自分も食べたし飲んだんだから払うのは当たり前と言つが気にしなくていいと言われる

ゆっこが耳元で気にしなくていいよ普通だよ

という

…これが普通？

男の人が払うものなの？

ゆっこは平然としているが私には理解できない

ノアはまた違う世界に足を踏み入れたような気がした
店を出ると街は人でいっぱいだった

ゆっこがノアに呟いた

ノア

私、達也に家呼ばれちゃったんだけど抜けて大丈夫？

えっ

ノアは一瞬意味がわからなかったが確実に店を出た時点で二組にな
っている位置に立っていた

うそ…

無理だし

二人つきりじゃ話せないよ

ノアは必死にとめたがゆっこは聞いていない

話が進まずにいると大樹が二人で話そうとノアの手をとった

すると流れに乗りゆっこ達も手を振り人込みの中に吸い込まれてい
った

82

…ああ

なんでこんな風になっちゃうんだろう

来た事に後悔しながらも、すでに二人つきり

大樹はブラブラしようかといいい歩き始めた

ノアも歩くぐらいならと後ろをついて行った

街を抜け小さな公園が見えるとあそこで話そうかとベンチをさした

ノアは頷き

二人並んで座った

座るなり大樹が喋り始めた

ノアちゃん彼氏いないって言ってたけど好きな人いるの？

…好きな人はいない

付き合ってる人はいるようないないような…

なんて説明すればいいだろう

今日だけと言う気持ちでいないと言ったが二人きりになるとまた別の話だ

しかし大樹の真つすぐな視線を感じるといえないというしかなかった

…また嘘ついた

散々ゆっこの行動を有り得ないと言っていたが私がしてる事も最低じゃん

何で言えないんだろう

ノアは大樹が少し気になっていた

周りにいない大人の雰囲気何より優しさが伝わってくるからだ

ならさあ

ノアちゃんの彼氏に立候補しちゃおうかな

えっ？

どう答えていいのかわからない

さっき会ったばかりなのにいきなり言われても…

キー坊と一緒にじゃん…

すぐには言わないけど少しずつ俺を見て行ってほしい

ノアちゃんに俺が相応しいかどうか時間をかけて決めてくれないかな？

ノアは悩んだ

単純な糸が、ぐちゃぐちゃにほつれかかっている

今引き返さないと取り返しがつかなくなると…

だからメールからでもよろしく

どうかな？

…嫌じゃない

しかしここでキー坊の問題も解決しないまま進んでいいのか？
更に悩む

爆音が響き始める

だんだん近くに聞こえてくる

…まさか

ノアはとっさに大樹に抱きついた

肩に顔を埋めて横目で道路を見る

…ああ

あのバカ

しっかりと先頭を走りながら車も歩行者もお構いなしに走っている

何をしてるかと思えば迷惑そうなバイク数台で自分の道路のように走っている

最後尾には

…ミーマイの彼氏じゃん

横目で見ながらため息が出る

一気に現実を突き付けられた気分になった

ノアは無性にいらいらした付き合っているとは思ってないが彼氏と周りに公言しといてこの大迷惑行為…

ノアちゃん？いきなりどうした？

あっ

ノアはまさかと思い条件反射で大樹に抱きついてしまったのだ

ノアは恥ずかしさで顔が真っ赤になる

ゴメンなさい

私帰るね

ノアはもうどうしていいかわからず早足で街の方へ向かった

しかし自分の気持ちの変化には少し気付きながらも…
季節はもうクリスマスまで一ヶ月をきっていた

啓翁桜 5

何もかも上手くいかない…どこで歯車が狂ったのだろう…

好き？嫌い？

出会い？別れ？

付き合っって何？

付き合っって何があるの？

一緒にいたいから？

好きって言われたから付き合っの？

好きって言われたから好きになるの？

セックスする必要？

誰がルールを決めたの？

手を繋いで抱き合っってキスをしてセックスして…

この順番はいつから決まってるの？

逆でもどれから始まっっても問題ないでしょ？

もし逆なら裸になることより手を繋ぐ事がすごい恥ずかしくなるよね？

セックスする事が浮気？

手を繋ぐのは浮気じゃないの？

誰を基準に物事を決めてるの？

私は私だし誰にも左右されない

でも私の物差しも今の環境と経験でしか計れないんだよね…

ノアは悩んでいた

今の微妙な立場やこれからの事
人との付き合い

好きになる事の難しさ

なにもかも嫌になっていた

キー坊とはあれ以来会っていない

連絡はくるが返事も返したり返さなかったりと微妙な関係が続いていた

もはや付き合ってるとは言える状態ではなかった

ハッキリ言おう

ノアは電話をかける事を決めた

そんな事を考えていると WHO が流れた

もしもしノア？

何してる？いつもと変わらない元気な声が受話器から聞こえる

この前ゴメンねえ

途中で別れちゃって

あの後達也の家行って付き合いの事になったよ

えっ？

付き合いなの？

ノアはゆっこの話にはいつも驚かされるが付き合い始めたのにはいつも以上に驚いた

高校に入ってからゆっこは自由奔放で高校生活を満喫していた

恋多きゆっこ

経験はどんどん積み私の知らない事を教えてくれる

今日はなんだろう？

驚きと期待感が膨らむ

家に行ってまた飲み始めたんだけどいきなり押し倒されちゃった

私も飲んでたしそのまま抱きついたんだよねえ

やっぱり大人は違うねえ
包み込まれちゃった

ノアはリアルな話に携帯を持つ手に力が入る

でねえ

達也が途中でバファリンみたいな錠剤を持ってきたんだよね

飲んでって言われて何かもわからなかったけど気持ち良くなるから
って

二人で飲んで裸で横になってたらすごい身体が熱くなってきて股の
辺りが更に熱くなってフトモモを重ねようとすると擦れた瞬間今ま
でにない感覚が身体に走ってびっくりしてねえ

天井を見てるだけなんだけどすごい楽しくなって達也を見るだけで
すごいエッチしたくなって自分からパクツとしちゃった

もうイクってこんな感じなんだってのを感じた後は記憶が何回も飛
んだよ

気付いたら3時間以上エッチしてた

で付き合おうって事になって即オツケー出したよ

ノア

達也とエッチの相性バツチリだよ

もう他の人じゃ満足出来ないかなあ

すっぴい…

エッチってそんなに長くするんだあ

バファリンみたいな錠剤って何だろう？

ゆっこが自分から舐めるなんて…

あれだけ舐める事に抵抗があつたはずなの急になんてだろう？

その現場にいるかのようなリアルな話…

ノアとゆっこの経験の差はどんどん開いていくばかり

ああ…

エッチってやっぱ気持ちいいんだあ

3時間も裸になってしちゃうんだあ

ずっとバナナが入ってるのかなあ…

ノアの妄想は一人走りをしている

ゆっこは話を続ける

でねえ

大樹がノアの携帯番知りたいたんだったって

この前なんで教えなかったの？

大樹超いい人だよ
ノアにぴったりじゃん

…だつて

あの忌まわしい記憶がよぎる
公道を我がもの顔でバイクで通り過ぎていったキー坊
肩書は私の彼氏…
例え彼氏でも誰にも紹介できない
早く別れたい

ノア？

どうする？

メールしてみれば？

ノアは大樹に好感を持っていたがキー坊との事が気になっていた
しかし今はキー坊に呼び止められても振り向く事すらないと思っ
ている

ゆっこメアド教えといて
メールしてみるね

そう言つと

ゆっこは任せてといい電話を切った

もうちょっと聞きたかったなあ…

ゆっこのエッチな話

ノアはエッチに対する考え方がまた広がった

ゆっこの先行く行動がノアの五感を確実に刺激している

無知なノアはゆっこの話を真っすぐ聞いてしまう

ゆっこは自分がどういう状況におかれているかまだわかっていなかった

二人の進む道はズレ始め違う道へと変わり始めていた

啓翁桜6

(クシユン)
また風邪引いたかなあ

12月になるとかなり寒さも増してノアの鼻も忙しくなり始めていた

キー坊と大樹

二人の男の狭間で揺れていた

キー坊にはつきり言おう

ノアは心に決めてた言葉を何度も呟いていた

キー坊にメールをしてあの公園を待ち合わせ場所にした

何もかもが始まった公園

終わりの始まりと同じ公園でとノアは思った

ノアは自転車に乗り公園に向かった

頭の中ではキー坊との出会いから今までがグルグルとまわっていた

もしあの時ミーマイの誘いを断りきれなかったなら今こうしてる事も

ないんだろつと思いながら自転車を走らせる

公園に着くとキー坊は来ていた

おう

久しぶり

全然連絡つかねえーしなんでメール返さないんだよ

キー坊はちよつとイライラした態度をとっている

ノアが何度も練習した言葉を言おうとしたが

まあ連絡してきたしいいか

今日は俺行きたい所あるから一緒来てよ

ちよつと遠いからバイクで行くぞ

タバコの煙りを吹き上げながらキー坊はヘルメットを投げた

ノアは慌ててヘルメットを取ろうと手を出すかヘルメットは転がった

…無理

今日は絶対引かない

このままじゃ何も変わらない

ノアは時間ないからここで話をしよう言ったがキー坊はあの鳥肌がたつようなバイクのエンジンをかけた

大事な話があるから聞いて

そんなノアの言葉を掻き消すようなバイクの騒音

キー坊は俺の用事はすぐ終わるからそれだけ付き合えと引かない

…まただあ

ノアはあれだけイメージしてきた言葉を口に出せない自分に嫌気がさす

唇を噛み締め

ため息をはく

…最後だから

自分を納得させるように心の中で呟く

どこに行くんだろっ…

早く時間がたたないかなと思っっているがバイクの爆音だけが無情にも響く

ふと正面に目を向けると大きな建物が見える

…病院？

キー坊は慣れた感じでバイクをとめた

何も言わないキー坊の後ろをノアはついていく

病室の前でとまるとキー坊が口をひらいた

ノア…この部屋に他人を入れるのは初めてだからな

全てを俺に任せてくれ

…何を任せる？

ノアは意味がわからなかった

キー坊がドアを開けるとベットに人が見える

…誰？

キー坊は当たり前のようにベットの隅に座った

どう？調子？

今日は紹介したい子連れてきたよ

ノアは全く状況がつかめない

ベットには横になった女性がいる

今付き合ってる彼女のノアいつも話してる子だよ

ベットの上で女性は笑顔でキー坊の話を聞いている

初めましてノアさん

いつも瑞樹がお世話になってます

ごめんなさい

こんな姿で挨拶して

ちよっと体調が悪くてね

ノアは慌てて首を横にふる

えっ？

お母さん？

キー坊が行きたいとこって入院してるお母さんのところだったの？
とてもキー坊からは想像できない感じの母親

どーして入院してるか気になるが笑顔で会話している
しかし顔は妙にやつれていた

何か病気なんだろう

ノアは二人の会話に入る事もなく静かに話を聞いていた

病室を出る時に母親に呼び止められた

ノアさん

瑞樹をよろしくね

バカな事ばかりしてるけど根は優しい子だから
あなたみたいな素敵な子だったら私も安心できます

…何も言えない

別れ話をするつもりがお願いされるとわ…

母親は手を伸ばしてきた

ノアは握手をしたがその細さにびっくりした

しかし握る手には力がしつかりと入っており母親の瞳はノアを真っすぐと見ていた

どうしよう…

ノアは言葉がでてこない

病室から出た二人だが沈黙が続いている

母さん癌なんだ

末期のね…

キー坊が切り出した

…そっかあ

声にならないノア

どーしても会わせなかったんだ

先週先生が余命あと三ヶ月だって言ってた

少しでも安心させたかったのとノアにも知ってもらいたかったんだ
よねこの状況

…うん

どう答えていいのかわからないノア

俺もヤンチャばっかりしてたから最後まで安心させてやりたいんだよ

毎日とは言わないけど一緒に見舞い来てくれない？

キー坊の口調はいつもと違い優しかった

なんて言えば…

別れ話をするつもりがこんな事になるなんて…

わかった…

ノアはそう言うしか言葉が見つからなかった

あんなお母さんの姿見たら行けないなんて言えないよ

キー坊は何も悩みなんてないと思ってたのにあっただ…

帰ろうか

そー言っつてキー坊はバイクに乗った

あっ

ノア話あるって言っつてたけど何？

急ぎだった？

このタイミングでキー坊に言える話はないよ
どうなるんだろう私この先…

ノアはなんでもないよと言ってバイクに乗った

帰り道バイクに乗っていると不思議とキー坊の腰に回す手に力が入った

妙に寂しさと切なさが込み上げてくる

ノアは溢れる涙をキー坊の背中で抑えていた

啓翁桜 7

どーすれば上手くいくんだろう？

いつから損得を考えるようになったんだろう？

好き？嫌い？

違う…

ノアの頭の中はぐちゃぐちゃになっていた

あのお母さんの姿と、か弱い手で握られた感触が脳裏から離れない

ああ何もしたくない

そー思うと尚更全てが嫌になってくる

別れようと決めた自分の決意と目の前で起こった現実との狭間に揺れていた

別れたい…でもお母さんの真っ直ぐな眼差しでお願いされた事が胸に刺さる

ノアは都合のいい言い訳と自分を納得させる理由を考えるが出てこない

ふと思う

一年後自分は何をしているんだろうか？

去年を振り返ればまさか自分がこんな事になつてるとは思いもしなかつたけど…

今考えてることが懐かしいと思つているのかな？

それとも…まだキー坊に振り回されているのか

お母さんわ…

やりきれなくなる

もう考えるのはやめよう

どんな事があつても私は私

自分が決めた道を進んで行こう

ぐらつく気持ちを振り払うかのようにノアはベッドから飛び起き窓を開けた

決意を胸に携帯のボタンを押した

いつもより呼び出し音が遠く聞こえる…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2854t/>

心のルーズリーフ

2012年1月6日23時48分発行